

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>それまで作り上げられてき、ご利用者の生活と家族の生活、そして地域との関わりを切り離さないことが当事業所の理念として掲げております。理念:1.自立(入居者の自立を目的として) 2信頼(入居者・家族・職員間の信頼を目的として) 3笑顔(皆が笑顔で生活が送れることを目的として)。そして、理念に対する具体的行動指針を掲げております。</p>	<p>これからも、ご利用者がそれまで作り上げてきた生活を切り離さない、繋げるという作業は、地域密着型事業所の役割だと考えております。地域を知り、ご利用者をも十分知って介護させていただきます。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>基本理念と共に、具体的な行動指針を掲げ、ご利用者、ご家族と関わっております。認知症であり、「今」のみで生活を送られているご利用者もおります、その「今」が、安心して安らげる対応を実践の中で取り組んでいます。</p>	<p>これからも、理念とその行動指針を自己覚知しながら業務を遂行し続けたいと思います。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>当事業所の理念は、家族のお便りでもお知らせしておりますし、事業所でも掲げております。しかし、何よりも、職員の姿勢からご利用者、家族、地域、医療関係者等に、理解していただけるよう「地域」を大切に日々業務に取り組んでいます。</p>	<p>ご利用者や家族にとって、介護の実践が理念という形にとらわれず、自然に介護の中で実践し続けていきたいと思っています。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>一番の地域との支えあいは、運営推進委員会です。ご利用者を筆頭に、ご利用者の家族、地域の代表者、知見を有する者、行政の関係者の構成の中、実際の日常の業務を委員会で、私たちの事業内容の適正を常時公開し評価を頂いております。地域の行事には、外出してのご利用者の参加の機会を持ちますし、地域の方々が、施設に足を運び馴染みの民芸を披露していただくという機会も行事委員会で年間計画として取り上げております。また、福祉の人材不足の中、近隣の中学生の社会見学の間として、事業所を提供し、高齢者の理解を得ると同時に施設を理解していただいております。</p>	<p>これからも、地域を意識して、ご利用者のかかわりを繋ぐ支援をさせていただく為に、運営推進委員会、ご利用者の意見に耳を傾け、評価を受けていきたいと思っています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>これから、運営推進会議を中心に、新たな事例を常に評価していただく姿勢を持ち続けたいと思います。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>これから、運営推進会議を中心に、新たな事例を常に評価していただく姿勢を持ち続けたいと思います。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>現在の行政と医療の関わりは非常に深く、今後も現状の維持、向上に努めていかなければ、地域密着型サービス事業所としての役割を果たすことが出来ないと思います。今後も、行政、医療との関わりは、ご利用者の為にも大切にしていきたいと思っています。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>権利擁護事業や成年後見制度に関わらず、高齢者が安心して生活を送ることが出来る法的な理解を指導していきたいと思っています。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>これからも、虐待のシグナルを知識として、現場で生かし、身体的虐待だけでは無く経済的虐待の早期発見に努め続けます。そして、管理者としては、その対処において、行政、福祉との連携をこれからも十分とりたいと思っています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>初回の説明では、一般的に理解することは難しい内容ですが、安心してサービスが利用できるシステムであることが伝わるように努力いたします。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>傾聴する姿勢を、これからも大切にしていきます。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>安心していただく形での報告に心がけたいと思います。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>意見、不満、苦情は、真摯に受け止め改善していきます。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>職員、一人ひとりの意識を、ご利用者のためにという方向に向けこれからも色々な機会に意見を出せる機会を作りたいと思います。</p>
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>今後も、状態の変化に合わせて、柔軟に対応していくように取り組みます。利用者にも、安心して安全に暮らしてもらおう為にも、人員配置に注意し、調整するよう努めます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>当事業所において、移動は現在ありません。今後も予定はありません。新しい職員が配置される時は、教育係に一月ほど一緒にシフトを組んだ中で、ご利用者や業務の理解をしていただき、ご利用者のダメージを防ぐように配慮しております。まずは、職員間の人間関係の調整に配慮し、全職員が、自分の都合ではなく、ご利用者の都合に目を向けることで、同じ目的意識をもって業務に関わることを意識付けております。</p>		<p>ご利用者が、不安に陥らない介護を取組んでいきます。</p>
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日々の業務が職員を育てる取り組みとして、管理者と職員が向き合っております。そして、施設内研修は勿論、施設外研修は毎月行っており各自の意見や感想の提出を全職員が自主的に行っております。更には、有資格者の現任研修に積極的に参加を法人として勧めています。研修参加は、出来る限り二人以上の参加をし報告が食い違わないように、多くの職員が参加できるようにしております</p>		<p>様々な専門職種の集まりとなっておりますので、これからは職種の枠にとらわれない研修参加を行い、同じ目的意識を持ってサービスの提供が出来るように努力します。</p>
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>身近な所では、地域のケア会議の中で同業者や関係医療従事者、関係行政従事者との交流や意見の交換、学習の場を持つようにしております。最近では全国小規模多機能居宅介護事業所協議会に加入しまして、札幌や仙台の交流会に多くの職員が参加しております。また、新規事業の立ちあげ予定者の見学施設として常時受け入れや、電話相談の対応をしながら、その中で問題点に気付かされることが多い現状です。</p>		<p>まだまだネットワークの少ない事業ではありますが、常に学ぶ姿勢をもって業務に取り組んでいきたいと思っております。</p>
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職場でのストレスの原因の一番が、人間関係にあると言われています。業務中は、なるべくご利用者のサービスに集中するように指導し、職員は勤務中は同じ目的に向かって業務が出来るようにしています。また、個々の職員の特長を見極め、職員の家庭背景を面接時に把握し、職場外での不安や悩みについても何気なく、声を掛けるようにしています。</p>		<p>管理者は挨拶、労いをもって職員と関わること、介護の現場に立会い、職員が困っていることを現実的に確認する機会を持ち、職場全体がご利用者の喜びの為に、それを、全介護者の喜びに繋がっている、だから頑張りましょう！という気持ちを常にもって接し続けたいと思っております。</p>
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>介護保険法の改正と、高齢化に伴い、知識、技術が問われる職場になり、資格取得を積極的に勧めています。また、勤務表における業務の平等性には十分配慮するように、勤務表作成者には指導しています。研修の参加は、一部自主参加を取り入れ、無資格者であっても、平等に研修に参加できるようにしています。健康診断は年に1回行い、自主検診の為に休暇も自由に取れるようになっていきます。</p>		<p>管理者は、労働基準法の遵守につとめます。職員も労働基準法で守られている職場であることを、これからも伝え続けます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービス利用前の対応としては、前サービス提供事業所からの情報収集を事前に行い、それから、こちらから出向き、本人と家族から事実確認をして、介護を実施する中で、全体的な把握をするように、全職員が努めています。また、全職員は、その後の本人の状態の変化に合わせた対応をする努力をしています。</p>	<p>今後も信頼関係を築くように、努力します。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス利用前の対応としては、前サービス提供事業所からの情報収集を事前に行い、それから、こちらから出向き、本人と家族から事実確認をして、介護を実施する中で、全体的な把握をするように、全職員が努めています。また、全職員は、その後の本人の状態の変化に合わせた対応をする努力をしています。しかし、それでも対応に困ったときは、再度前サービス事業所との相談をする等連携をとっています。</p>	<p>今後も信頼関係を築くように、努力します。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>全職員が、情報を共有し、他の利用者との関係や、場の雰囲気に配慮するように努めている。職員で、知れない情報などは、家族等に相談し介護に反映し、本人がサービスに馴染めるように支援している。利用者同士の混乱を招かないよう、日頃の様子をよく観察し、支援を行っています。</p>	<p>今後も、本人が安心して過ごせるようご家族等と協力し合い、馴染みの環境に近づけるよう努力します。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の生活歴を把握して、利用者の表す喜怒哀楽の根源となっているものを受け止める努力をし、表現が自由に出来る場所であるように支援している。職員は、利用者を人生の先輩として、人として寛容に受け止め、共に生活をしようとする姿勢を学び取る事もあります。</p>	<p>今後も、利用者は人生の先輩として、尊厳が保持できる関わりを続けたいと思います。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族へは、面会の際や毎月の家族への利用の状況をお知らせする手紙を送り、情報交換を密に行うように心がけ、利用者や家族の思いを確認して、それに答える努力をしています。		利用者と家族を一つの単位として関わり、より良い援助関係が出来るように努力します。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、家族へその月の利用者の状況を手紙にして送っています。面会があった際には、家族へ直接利用者の近況をお知らせしています。そして、職員では対応できない部分を家族に埋めて頂くなど、職員が間に入り、家族と利用者の関係を繋げる努力をしています。		利用者と家族を切り離さない支援を、引き続き支援していきます。
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望に応じて、自宅やそれまで働いていた畑などに行ったり、ドライブに行った際、なじみの人や場所に行き、それまでの関係を絶たない支援を心がけています。		利用者と地域を切り離さない支援を、引き続き支援していきます。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の関係を把握し、共同の作業やレクリエーションを行い、関係の円滑化に努めています。また、利用者間でも、お互いのできない部分を助け合えるように職員が間に入り利用者同士がより良い関係の中で生活が送られるように支援しております。		利用者同士の関係が、これからもより良いものであるように、職員は努力していきます。
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院を機にサービスを終了した利用者であっても、その後の利用者の受け皿と一緒に探したり、入院中のオムツなどの必要物品を当苑で購入できるようにするなど、退所後の利用者や家族との関係は断ち切らないよう努力しています。		これからも様々な理由により、退所されるご利用者がいても、その後が困らないように一気に関係を断ち切らず、利用者や家族が落ち着くまで支援する関係を維持します。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしや、生活の中の介護を通し、利用者の気持ちに触れ、利用者の意見、希望を尊重しできるだけそれに近づけるように努力しています。意思表示の難しい利用者には、それまでの生活で関わった中で把握した事や、そのときの本人の表情や反応から思いを汲み取る努力をしています。</p>	<p>意思疎通の困難な利用者は、「今」の介護を大切に関わっていききたいと思います。</p>
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前からの本人と地域の関わりについては、主に本人からの情報が多く、日常の関わりが大切であることを痛感しています。さらに、家族などから、情報収集し馴染みのものを用意したり、ライフスタイルにあわせて環境を提供できるように努めています。</p>	<p>これからも、利用者と家族、それを取り巻く方々の話を傾聴する姿勢を大切にします。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の利用者との関わりあいの中で、信頼関係を築き、毎日のバイタル測定、毎食の摂取量・排泄の記録、日頃の生活の行動観察など記録をし、利用者の暮らし方や生活リズムの把握に努めている。利用者の残存機能が維持・向上できるように常に自立支援に努めている。また、毎日コアタイムを設け、1日1回全ユニットの職員による申し送りが行われ問題等の把握に努めるよう努力しています。</p>	<p>これからも、利用者を中心に置いた職員の意見を引き出し、利用者の可能性を引き出せる支援をしたいと思えます。</p>
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者にあわせてそれぞれ職員や介護支援専門員より意見を聞き、介護計画を作成しています。その介護計画は家族へ送付し承諾を得ております。</p>	<p>これからも、利用者本位の介護計画立案に努めていききたいと思います。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の実施期間を明示し、職員・家族が目を通して計画の実施・見直しをしている。計画立案・見直しをした際は、家族へ送付し意見や要望がないか確認をしている。利用者や家族の状況に合わせ対応できるよう周りと連携を取れるように努めている。</p>	<p>実施期間終了後の見直しをし、利用者や家族等の希望変化時、身体状況等に合わせ迅速な介護計画の見直し・実施に更に努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者個々の生活を観察し、全職員が情報の共有、気づいた事を話し合い介護計画を作成している。毎月、家族へ1ヶ月の様子を手紙にし伝え、生活状況を把握していただき、利用者・家族の要望や意見を取り入れるようにしている。</p>		<p>介護計画に沿って実施した内容・結果を具体的に記録できるように統一していきたい。</p>
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>基本は、ご利用者と家族の希望は拒否をしない事。まずは応じて、それがご利用者や家族にとって必要なサービス内容であるかを決めるのは介護者側ではないことをサービス決定の基本にしています。柔軟な対応は、困難事例のご利用者にとっては、医療関係者、行政、福祉関係者にとっても利便性のある事業者として利用していただけるように実施しております。</p>		<p>今までの介護保険サービスのあり方とは、全く違う事業のあり方が、今後も地域の方々により良いサービスの提供になるよう努めていきます。</p>
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>社会福祉協議会から、ボランティア団体の紹介を受けたり、そこから個人的なボランティアの紹介を得て庭木の剪定をしていただいたり、選挙は希望するご利用者全員の移動支援を地域の方々力を借りて行っています。個人のボランティアの慰問は、毎年定例になっております。そして、困難事例の中には警察署の介入もあり協力が得られています。消防署は、救急搬送も含め年2回の防災訓練の協力を得ております。</p>		<p>こちらで待つボランティアでは無く、こちらから地域に出向くことで、様々なボランティアに出会うことが出来ました。これからも、地域の行事や催しには積極的に参加し、地域住民の暖かさに触れ、ご利用者が、地域と繋がっている事を実感していただけるように支援していきたいと思えます。</p>
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>当事業所に無いサービスの提供は、ご利用者の状態により、介護支援専門員からサービス提供を勧める場合もあります。その場合、医療関係者の意見を聞くこともありますし、前の介護支援専門員からのアドバイスであることもあります。判断材料、判断根拠は多く作り、確認作業にも時間を掛け適切な介護の提供がされるように支援しております。</p>		<p>一方的なサービスの提供にならないためにも、これからもご利用者のより良いサービスの提供の為の情報交換に努めていきます。</p>
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>困難事例が多く、包括支援センターとの相談は日常的に行っております。介護支援専門員一人が相談相手ではなく、様々な方々がご利用者を支援している事が安心に繋がるよう心がけております。定例の、包括支援センターの会議の参加、研修の参加も常時参加し、関係作りに努力しております。</p>		<p>包括支援センターが出来ることと、当事業所が出来ることを合わせ、より良いサービスの提供に努めていきたいと思えます。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師と看護婦との話し合いは日常的に行っております。まずは、事業所内において本人と家族の希望と看護師との話し合いをもって医療との連携を図ることで医療との連携がスムーズに進むように支援しております。看護師は、ご利用者の身体状況についての情報は、介護者や病院から得られる良い関係作りに努力しております。介護職員にとって医師、看護師からのアドバイスは、ご利用者の、安全で安心できる生活を送る重要な情報となっています。		病院の長期にわたる、社会的入院の解消の手助けの一手となり、サービスを利用しているご利用者も、安心して医療から離れた生活を送られる取り組みを続けたいと思います。
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域で長く生活されたご利用者が多く、主治医からは、専門医と同等なご利用者の病歴及び治療歴、検査等の情報提供が得られています。看護師や薬局の薬剤師等からの情報提供を得られることから、ご利用者が大きく変化する前に適切な治療を受けることができます。ただし、入居後どうしてもそれまでの主治医での対応が困難なご利用者につきましては、主治医を通し専門医の受診をするケースもあります。		認知症であっても、適切な治療を受けられる為の助言者でい続けたいと考えております。
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	上記同様に、地域で長く生活を送り、サービスを利用するに至ったご利用者が多く、馴染みの病院の看護師からの情報提供が得られ、気軽に相談できる関係が出来ております。		治療が必要なご利用者であったも、在宅の雰囲気の中で生活し続けられる援助と、それに伴い、家族も安心できるサービスの提供に努めていきたいと思えます。
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族や医療関係者からの情報提供を基に、治療と介護のラインを主治医に決定していただき、早期に退院できるように支援していただいております。また、退院後のフォローも勿論のこと、引き続き主治医を交えたご利用者、家族、介護職員の話し合いの場を必要に応じて設けております。		今後も、病院の長期にわたる、社会的入院の解消の手助けの一手となり、サービスを利用しているご利用者も、安心して医療から離れた生活を送られる取り組みを続けたいと思います。
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	死を特別なものと考えず、本人と家族が望む終末を、事あるごとに確認をしております。痛み、苦しみが無い場合、出来る限り現状の中で希望することが多く、その気持ちを尊重しております。終末期を決定するのは、医師とご利用者の状態での判断でありますので、介護者はあくまでもご利用者の尊厳の尊重に努め、必要なご利用者には、医療との連携に重点を置いて介護することも行っております。		思いもよらない事ですので、常に、ご利用者と家族の声には耳を傾けていきます。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族は、常にご利用者の環境が変わることへの不安を持っております。出来るだけ今の状態でいてほしいと言う気持ちの中に、今後起こるかどうかわからない不安を持たせることはしておりません。ただ死は特別なものと考えず、本人と家族が望む終末をその時々迎えることが出来るようには関わっております。そして、その時々で医師や介護職員が最善の努力を持ってもらい良い結果が得られなかった場合は、双方の納得が得られると共に、ご家族のその後の立ち直りも早いと考えております。		思いもよらない事ですので、今後も、常に、ご利用者と家族の声には耳を傾け重度化や終末期の際の介護のあり方が、ご家族のその後の早い立ち直りに繋がられる支援をし続けます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替え時のダメージはどのご利用者にも見られます。出来るだけこのまま、ここで見てください、という家族がほとんどですが、状況が許されない場合もあるということは家族に伝えております。特に、介護度の高いご利用者は、特別養護老人ホームの申込をしている方が多いですので、申込先施設への情報提供は、毎年行っております。事業所としては、痛み苦しみがなければ、医療との連携を図りながら、全てのご利用者を、終末まで介護させていただきたいという気持ちで関わっております。</p>		<p>誰でも、住み慣れた場所から生活の拠点を移すことは不安であります。これからも、馴染みの関係の維持に努めながら、居宅を移り住むダメージの防止に努めていきたいと思っております。</p>
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の個々のプライバシーや尊厳に関しては、全職員に周知してもらい、より良い対応ができるよう学習・接遇委員会にて、「接遇用紙」を作成し、職員が目にした「利用者に対して、不快感や不適切な対応の内容」と「このように改善・対応して欲しい」ということを記入していただき、毎月発表し改善する努力をしています。</p>		<p>施設内研修において、今後も個人情報保護法について職員全員に理解してもらおう機会を設けより良い介護の提供に努力します。</p>
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の希望や関心を把握し、利用者が十分に意思表示ができない場合でも、本人の生活歴にある背景を根拠とし、表情や態度から読み取れるように努め、できるだけ本人の意思を聞きだせるように工夫しています。</p>		<p>意思疎通の困難な利用者は、「今」の介護を大切に関わっていききたいと思っております。</p>
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の心身状況を観察・把握し、一日の流れを本人のペースに合わせるように心がけている。利用者の言動を傾聴し希望を伺い、職員間で情報を共有し、その人らしい暮らしができるように努めている。</p>		<p>これからも、利用者を中心に置いた職員の意見を引き出し、利用者の可能性を引き出せる支援をしたいと思っております。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>集団としての日常の介護もある中で、利用者の個性や希望を尊重し、利用者の好みで衣服を選んだり、理容や美容も、本人が今までの馴染みの場所に行ける支援をし、本人がそれまでやっていたさりげないおしゃれでも、楽しめるように支援しております。</p>		<p>これからも、本人がいつまで自己主張ができるような対応に心がけます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みや希望、機能的な摂取方法を考慮し、調理法なども工夫しています。調理の準備や後片付けなどを、利用者へ促し、職員と一緒に行っていきます。職員も利用者と、一緒に席に着き、利用者との会話を楽しみながら食事を摂っています。		今後も継続して、利用者の方々が食事を楽しむことの出来るように支援・対応していきたい。
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	直接、本人から嗜好品については聞いています。また、家族からも情報として提供されております。高齢であり、嗜好品だけで食事が摂られないということが無いように、楽しみという程度で提供しております。お酒を、嗜好品とされる利用者もいますが、医師の了解を得て、職員の付き添いのもとで飲んでいます。利用者の嗜好品の制限は、医療などの特別な制限がない限り禁止しておりません。		これからも、可能な限り本人の嗜好を大切にしていきたいと思えます。
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを記録し、また把握しており、事前声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援を行っています。本人の訴えによる誘導の際は、待たせず即対応しています。失禁をしている場合は、利用者の羞恥心を抑えないようプライバシーの保護に努め、いつまでも羞恥心を持ち続けていただける支援をしています。		まずは、基本的欲求である排泄が、どのような状態の利用者でも「気持ち良かった」と思えような支援を心がけたいと思えます。
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴は、順番等出来るだけ希望を取り入れております。夏場ですと、希望にあわせシャワー浴等も行うなどしております。また、入浴を拒否するご利用者は、頃合を見計らい気持ちよく入浴できるように配慮しております。一般状態の優れない利用者は、十分にバイタル測定を行い、看護師にこれから入浴することを伝えてから行っています。他の利用者と一緒に入浴を希望する利用者は大浴場で、一人の入浴を希望する利用者は家庭風呂を利用しています。		事故のない、安全で安楽な入浴支援に心がけます。
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出や行事の後などの疲れ具合により、昼寝や臥床を促すように対応しています。しかし、昼夜逆転の利用者には、日中余暇活動や軽作業を促し対応しています。逆に、不眠の訴えがある場合は、主治医と相談して薬でコントロールして寝る時間には眠られるように支援しています。		まずは、基本的欲求である睡眠が、どのような状態の利用者でも「気持ち良かった」と思えような支援を心がけたいと思えます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝いや洗濯量など、利用者の出来る範囲でお願いしております。また、本人の生活歴や趣味を把握し、その人に出来ることをお願いすることで、毎日張り合いを持っていただくように支援し、日課としての役割が楽しく出来るように声掛けをしています。他にも行事委員会が、毎月嗜好を凝らした予定や慰問の受け入れを計画しています。		役割を持って、楽しめる生活を続ける為にも、早めに慰問などのお知らせをする等、変化のある生活を提供したいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や、家族の意向を配慮しながら、利用者自ら金銭管理が出来るように支援しています。金銭管理を行っていない利用者でも、買い物の際は自らが支払うなど現実的な支援を行うようにしています。職員は、利用者にとって、お金は自分の希望が叶えられる重要なものであることを理解して接しています。		個々の経済状況に合わせ、出来る範囲で金銭管理を支援していきたいと思います。
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換につながるよう、地域の行事等に外出する機会をつくるようにしています。その際は、利用者の身体状況に合わせた移動や、移動距離にするように配慮しています。最近では、誕生祝いとして、十和田湖を見たいという希望を叶えることができました。		馴染みの場所や馴染みの関係を断ち切らない支援を引き続き行っていきたいと思っています。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者から行きたい場所の希望がない場合は、職員がうまく聞きだす取り組みを行っています。また、一人ひとりの願いをかなえられるよう希望に添える取り組みを行っています。最近では、誕生祝いとして、十和田湖を見たいという希望を叶えることができました。また、姉妹が営んでいる売店に職員の時間がある時に出かけたりもしました。		馴染みの場所や馴染みの関係を断ち切らない支援を引き続き行っていきたいと思っています。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の電話希望がある場合は、即対応しています。電話の施行は事務室にて行っていただいています。また、そのとき留守の場合は時間をおき再度掛けなおすようにし本人が納得できるよう支援しています。手紙の場合は、代筆支援を行っています。季節によっては、写真入の暑中見舞いや年賀状を職員と一緒に作って家族などに送っています。		馴染みの関係を断ち切らない支援を引き続き行っていきたいと思っています。
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の来荘時は、個人の居室で歓談できるように場所を考慮し、家族がお帰りの際は、また来ていただけるように声がけをするようにしている。また、利用者の日常の状態を利用者と一緒の席で説明しています。		家族等が気持ちよく来荘でき、帰る際にはまた来たくなるように気持ちよく、お帰りいただく対応に心がけていきたいと思っています。
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員が全員周知徹底し、行っておりません。ただし、利用者の身体状況上必要な場合があれば、一時的にベッド柵を追加するが常時ではない。職員数の配置が多い日中においては行っていません。拘束と誤解をうけないためにも、家族の理解は得ています。		身体拘束は行いません。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全と保護の必要な場所の施錠以外は行っていません。それは、家族の了解を得て行っています。しかし、利用者の希望があるときや、天気の良い日は、職員の見守りの中施錠をしない時間帯も設けています。		完全に施錠をしないことが、利用者の安全につながらないこともありますので、これからも、利用者や家族の承諾を得て安全な介護を実施していきたいと思ます。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の居る位置によっては構造上死角となる場所がある為、職員が常時注意するようにしています。また、昼夜共に利用者の所在の確認、様子観察をおこなっています。常時職員が居る台所からは、利用者の様子が見渡せる為、職員が連携して、利用者の安全確認に配慮しています。		これからも、利用者が安全で安心していただける環境作りに努めたいと思ます。
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者にとって危険な物品の保管や管理については、物品管理委員会がマニュアルに基づき管理している。薬品の管理については、協力病院に隣接されている薬局の薬剤師に来荘していただき、管理の状態を見ていただいています。		これからも管理状態については、他者のアドバイスを受けながら、厳重な管理に努力したいと思ます。
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ヒヤリ・ハットの発生時には、報告書を作成し、ミーティングにて全職員に申し送りし周知されている。再発防止に向けて、全職員で検討し、事故防止に対しての意識付けをしている。いつでも報告書を確認できるように事務所に保管されている。		施設内での勉強会や外部の研修会等に積極的に参加し、転倒や窒息、誤薬、行方不明、災害などの事故防止方法を理解し、現場で役立てていきたい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応や応急・救命処置のマニュアルは作成されている。研修にも参加し全職員がそれを理解しています。実際の場合でも、それを生かし対応し命を取り留めた利用者もいます。		これからも、緊急時に対応できるよう、研修等を通して職員全員が対応できることが望ましいと思ます。そのように努力します。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等災害時の避難マニュアルを作成し、町役場・消防・警察等と連携し、消防署立会いのもと避難訓練を実施している。(7月、10月実施)また、食料・飲料水・毛布など緊急物資も備えている。		地域住民との日常の交流も促進し連携を密に取れるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクは利用者個人により、また疾病の状態や障害の状態により様々な予測が考えられる為、会議で話し合い、手紙や家族の面会の機会に説明している。また、利用者の状況に応じて、対応策の見直しを行っている。		リスクの発生は、予測されないものが多いが、ある程度の時期には、本人と家族の意見を十分確認しておくべきものだと思いますし、これからもそのように取り組みます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの、病状を把握し、毎日の一般状態の把握に努め、異常の早期発見に努めています。また、異常の発見時は看護師へ報告し、協力病院への相談等をして適切な処置を行っている。		本来の利用者の状態をよく知ることが、異常の早期発見につながるため、普段の関わりをただ時間を過ごすのではなく、利用者の様子をよく見ながら関わっていきたくと思います。
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をいつでも確認できるように、利用者個々の台帳に処方箋を綴じている。飲み忘れや誤薬がないように、利用者の名前、日付、朝・昼・夕の確認を声に出して行い、利用者が服用するまでに3回確認を実施している。		今後も継続して服薬支援をしていきたい。
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	学習・接遇委員会にて、便秘の原因や及ぼす影響についての勉強会を開催する予定である。便秘傾向にある利用者に対しては、腹部のマッサージをするように促している。また、水分補給を促したり、身体を動かすように働きかけている。調理の際は、繊維質のある食材を多く取り入れ便秘予防に努めている。		便秘の原因や及ぼす影響についての勉強会を開催する予定である。(11月下旬)
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	施設内で口腔ケアの勉強会を開き、口腔ケアの必要性を全職員が理解している。毎食後、利用者へ口腔ケアの声がけをし、利用者個々に応じた介助、見守りを行っている。自分で口腔ケアを行っている方に対して、口腔内や義歯が清潔に保たれているかを観察し、清潔保持に努めています。		自力にて口腔ケア可能な方に対し、口腔ケア終了後、自尊心を傷つけないよう声がけし確認している。
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、献立を作成してもらい、バランスの取れたメニューになっている。また、指導助言をいつでも得られるようになっており、食事や水分の摂取量の管理に必要な利用者には、記録している。塩分制限の必要な利用者に対しては、栄養士から助言をしてもらっている。また、協力病院での定期検査により、検査データによる栄養状態確認も行っている。		今後も管理栄養士の指導・助言のもとバランスの摂れた食事を提供していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルがあり、それに沿って実施している。また、定期的に、種々の感染症の勉強会を内部研修で行っています。		今年6月にマニュアルを作成し実行し始めたばかりなので、必要に応じて見直しを行っていききたい。感染症に関する情報の収集を行いたい。情報や勉強会の内容を利用者やご家族へ伝えていきたい。また、職員への感染症予防について、理解してもらおう機会を作りたい。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のマニュアルを作成し、全職員で取り組んでいる。食材の在庫表があり、賞味期限に気をつけ食材の使用をしている。また、食材の仕入れは、提携している業者に定期的に持ってきてもらい、買い溜めはしていません。食品の管理場所は、暗く涼しい場所や、業務用の冷蔵庫を使用しています。		今後も食中毒予防マニュアルをもとに、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めていきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や利用者の目につく場所は、植木を置いたり、花を飾り明るい雰囲気作りをしています。また、近隣の方通った際には、事業所に寄って休んでいただく椅子を準備したり工夫をしています。実際、朝の空気浴で、利用者が庭に出ていると、近隣の方が立ち寄って元気な様子を見ていくということもあります。		これからも、利用者や近隣の方が立ち寄りやすい雰囲気の事業所作り心がけていきたいと思えます。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下等の空間には、調度品や季節の花を職員が持ち寄ったり、利用者と一緒に壁飾りを作成したものを飾ったりし、利用者と共に空間作りをし家庭的な雰囲気作りをしています。利用者は、自分の作った作品を見て満足されています。テレビの音量や日差しは、生活時間により配慮しています。		利用者に、ここが自分の居場所であると、少しでも感じていただける心地よい環境作りを努めます。
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工場の改築した事業所であり、一人ひとりの空間は十分あり、利用者が一人で過ごせる場所、また利用者同士が団欒し語らえる場所を自由に選択できます。また、居室以外でも、楽に横になって利用者同士が語り合える畳の間や、テーブルでゲームが出来るスペースも確保している。		これからも空間の利用は、柔軟に対応していきたいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用しているもの、愛用していたものを持ってきてもらえるように、家族に働きかけています。利用者の、意見を聞き、職員と一緒に居室作りを行っている。		本人にとって居心地がよい居室の配慮に心がけます。
81 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	事業所は工場の改築あとで、天井が高く広さもあり、事業所内に、臭いや空気の上よみ等は少ないが、換気を定期的に行っています。利用者によっては、温度計・湿度計の数値に関わらず、暑さや寒さが全員同じとは限らないので、利用者の体質に応じて衣服の調整を行うなどの支援を行っています。		利用者の体質を良く考慮して、本人にとっての適温に配慮した、細やかな対応を心がけます。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールは広いので、自力歩行やリハビリが十分行えるうえ、日常動作だけでも十分なりハビリになっている利用者もいます。また、ホールや浴室などに手すりが設置され、安全に生活できるようになっている。居室の家具の配置や棚の位置を利用者に合わせ、居室内の移動がしやすいように工夫し置いています。		利用者個々の身体状況に合わせ、その都度安全に自立した生活が出来るよう対応していきたいと思えます。
83 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	環境・感染委員会にて、毎月1回、施設内の環境チェックを行い、環境整備を行っている。利用者が解るように、随所に案内を表示しています。居室の扉の形状は全て同じであり、現在利用者の混乱を招くような事態は起こらない工夫をしています。		今後、気になる汚れや紛らわしい表示、同じ形状の扉などにて利用者の混乱や失敗を招く可能性もあるので、今後も利用者にとって解りやすい環境の工夫をしていきます。
84 建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者と共に玄関前に花を植えたり、天気の良い日には、玄関前のベンチを活用し、外気浴をしたり、歩行運動をしたりしている。また、ホールも広いので、踊りや唄等の慰問を招いて利用者の方に楽しんでいただいている。		今後も利用者の方に楽しんでいただけるように回数を増やし取組んでいきたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

せせらぎ荘の職員の行動指針は、やすらぎ、ゆったり、あたたかさを与える支援をする 馴染み親しみのある関係作りの支援をする 生きがい、夢、希望を与える支援をする 自立、尊厳、自己決定、自分らしさを尊重する支援をする サービスの質の向上に努め、平等に支援する 家庭的な環境で支援するとし、入居者一人ひとりの状態に合わせて支援が出来るようにしています。施設内研修や勉強会、施設外研修に参加し、知識と技術の向上を図り、入居者の皆様が、安心・安全に暮らしていただけるように取り組んでいます。ご家族との面会時には、入居者の状況を報告し、遠方で来られる機会が少ない家族には、毎月近況を記した手紙を送付し、ご利用者とご家族の関係が絶たれない支援を提供しています。また、家族参加のイベントを開催し、交流を図りながら意見や要望などを聞き入れる機会をつくり、介護に反映できるように努力しています。ご利用者本位のもと、個々の要望を聞き入れ、外出や買い物などの支援を多く取り入れ地域との関わりが途切れない支援を提供しています。さらには、地域のボランティアや慰問の受け入れや、こちらからは、地元での行事には積極的に出かけるようにしています。こうして、ご利用者の要望を受け入れることにより、笑顔が絶えないご利用者の表情を見るにつけ、私たち職員も和むことが出来ています。今後も、このようなご利用者の笑顔が絶えないサービスの提供に努めていきたいと思ひます。